

金山 倫子

私は天職に出逢ってしまいました。それは歯科助手です。

日本の歯科は世界的にもまだ遅れているところがあります。先進国なのに、予防の意識が低いのが現状です。「歯医者さんは怖いから、痛くなってから行くところ」というイメージがありませんか？そうではなく、「歯医者さんに通うのが楽しい！定期的に行きたいところ！」というイメージにパラダイムシフトを起こすのが私の使命です。

そうすれば、患者様が進んで予防に関心を持っていただけたらと思うんです！

よく周りの人に職業は歯科助手だというと、歯科助手は資格がないので「歯科衛生士にはならないの？」と言われます。

余計なお節介です！歯科衛生士さんのお仕事も魅力的で尊敬しています。

ですが、私は歯科助手という仕事が大好きだからしているのです！

私は逆転の発想で、「資格がないからこそ、仕事の幅が広く、自由に羽ばたける」と思っています。型がないからこそ、嬉しい事に、限界が見えてきません。自分で仕事や枠を作れるということです。歯科助手という枠を飛び越えられるのも歯科助手なんです！

ですが、そのような想いに至るまでは様々な出来事もあり、職場を含め、多くの方に支えられました。私はカツベ歯科クリニックに19歳のときに入局しました。入社するまでは自分に自信がなく、マイナスな思考しかありませんでした。

入局当時は「こんなにモチベーションの高い職場ってあるんだ！ついていけるのかなあ…」自分との温度差が重荷に感じたり、仕事がうまくできず、無力な自分にイライラして「なんで私が雇って貰えたんだろう。カツベ歯科の恥でしかない…」と自信がなくて悔しい思いを沢山しました。毎日が失敗だらけで、帰っては、落ち込み、大号泣する日々が続きました。

ですが、幸いにも負けず嫌いな性格が自分を奮い立たせてくれました。院長、先輩の背中を必死に追いかけていました。

私は他の人に比べ、成長速度が遅かったです。目先の仕事に必死になりすぎて、周りが見えていなく、先が読めていませんでした。入局当初はアシストする際に、必死な故に雑になってしまい、「適当にやってる訳ではないと思うけど、もっと丁寧にして欲しい」と指摘を頂きました。先生に沢山、迷惑をかけ、フォローして頂く日々。情けなくなりました。指示された目の前の仕事をこなすことがやっとでした。

ですが、ある日、待ち時間に患者様に雑誌をお渡しすると先生が「気が利きますね！」と言って下さいました。失敗ばかりだったので、誉めて頂いたことが、飛び上がる程、嬉しかったです。

そして、業務の復習をしているときに院長が傍に来て、「そんなに難しいことじゃないよ。金山君はいつも一生懸命だね！」と言って下さったことが嬉しくて勇気ができました！言葉の影響力は絶大です！言葉はこんなにも人の心を救うパワーがあるのだと感じました。

入社して半年した頃、歯科助手サミットという歯科助手のセミナーに参加しました。そこで、講師の澤泉仲美子先生との運命の出逢いが私の人生を更に大きく変化するきっかけとなります。

歯科助手サミットに出会うまでは「歯科助手は先生の指示されたことだけしていればよい」「資格がないから自信がない、自信がないから疑問に思ったことも発言し辛い」と思っていました。けれど、歯科助手サミットに参加して、この概念を覆されました。資格のない、歯科助手だからこそ、歯科助手にしかできないことがあるとお聴きして、歯科助手の可能性は無限大なのだと考えが180度変わりました！だって、歯科助手は治療以外のことは全て担っているからです。先生や衛生士さんは患者さんと向き合うことに力を注いで頂いて、歯科助手にしか気を配れないことをサポートすることが大切ということに気付きました。

そこから可能性が開いていき、少しずつ自信がつき、仕事が楽しいと思えるようになりました。

少し慣れてくると、患者さんから治療の際、アシストが「全く不快感がなかった」「治療前に話しかけてくれて緊張がほぐれました」と笑顔で言って頂けました。先生からは「初めての治療で不安だったけど、金山さんがアシストしてくれて心強かったよ」と、衛生士さんからは「外科処置のアシストはやっぱり金山さんやね」と指名して頂けたりと、とてもやりがいを感じました。どんどん自信に繋がり、仕事に対する責任感や意欲を強く感じました。

それから、月日が経ち、私に可愛い後輩が数名できました。そして、私にアシスタントリーダーを任せて頂きました。後輩は私の入って間もない頃と比べると吸収が早く、淡々となす姿が本当に凄いと思いました。

そんな後輩のお手本になるようにリーダーとして、もっと頑張らないといけない。皆を引っ張っていかないといけない。完璧でないといけない。誰かから言われた訳でもないのに、そんな固定観念で頭はいっぱいになっていました。自分にムチを打っては、慣れないことに沢山チャレンジしていきました。

私は完璧主義だった性格から、自分への義務感や固定観念が強く、自分で自分をコントロールしようとし過ぎていました。些細なことが気になったり、人の言葉を深読みし過ぎていちいち傷付いたり、浮き沈みがかなり激しかったです。自分に期待を抱き過ぎて思考と目標が一致していませんでした。プライドばかりが高くなっていきました。失敗すると「あの時こうしておけば起きなかったミスなのに…」「あの人ならもっとできるのに」と過去のネガティブな思考の癖がつつい出てしまいました。人と比べては落ち込み、比較の世界の住人でした。

それでも、「リーダーは期待されているんだから、もっと頑張らないと！」と誰かに言われている気がしました。自分にムチ打って、頑張り続けるしか方法が分からず、そのまま突っ走っていました。自分への期待と自己否定の繰り返しが続きました。空回りも多くなっていきました。

やがては、20歳の頃に、心と体のバランスが崩れてしまい、燃え尽き症候群という名の鬱と睡眠障害を経験しました。その間もスタッフが親身になって話を聴いてくれ、支えてくれました。とても感謝しております。その後にストレスとの上手な付き合い方を勉強してからはストレスや感情をコントロールできるようになって無駄な力が抜け、自分の力を最大限に発揮できるようになりました。そして、頑張ることを辞め、楽しむことにシフトしていきました。ストレスは人を成長させてくれるということを学びました。起きた全ての出来事に意味があって「過去があるからこそ今の自分がある」と心から自己肯定が出来るようになりました。

それからは、固定観念が外れ、頭のネジも外れ、心臓に毛が生え、潜在意識が開きまくってしまいました。ネガティブな自分とはおさらばし、ポジティブな自分に生まれ変わりました。

生きながら新しい自分に生まれ変わってしまいました。

カツベ歯科クリニックは天国の様な職場です。とても風通しがよく、上下関係を気にせず発言しやすく、お互いを尊重、感謝し合える職場です。やりがいのある仕事はもちろんですが、やりがいのある職場です。ここで、人間関係や環境の大切さとありがたさを身に沁みて感じました。

色々なことを経験させて頂いて、メンタルが鍛えられ、「死ぬこと以外、かすり傷」という言葉があるように何事にも動じなくなりました。そして1秒前のことは過去だと思っています。未来のことしか考えられません！

義務感と固定観念はゴミ箱に捨て、使命感だけで生きてる今、毎日がワクワク、楽し過ぎ

ます。

歯科助手の最大限の魅力は患者さん、先生、衛生士さん、技工士さんの中立的な立場であり、常に客観的な視点を養えることです。そして、先読みする能力や創造力も養われます。患者さんや術者が何を考え、どういう想いで治療をしているのか歯科医院の中で最も人の気持ちに寄り添える立場です。歯科助手はコミュニケーターなんです！スタッフ一人一人の性格を理解し、治療に対する想いやこだわりを汲み取ります。それぞれの視点を考えながらアシストをしています。そうすると、人の気持ちや価値観について考えられるようになりました。人として大切なことを養えたのではないかと思います。相手の視点になって、物事を考えられるようになるのでイライラすることがなくなったのです。これは、私にとって財産です。

そして、先生、衛生士さん、技工士さんはプライドを持ってお仕事をしています。そこでパフォーマンスを最大限に引き出すために環境を整えたり、術者目線になって、導線を円滑にするのも歯科助手の役目です。

そして、他院でメンターでもある歯科助手の先輩は副院長となり、歯科医院経営やマネジメントに携わっておられる方もいます。チーフとして医院のスタッフを引っ張ったり、育成している歯科助手の仲間もいます。そんな先輩や仲間がいることも誇りです。もし「歯科助手って資格がない職業じゃん」と思われたのならこのことを知って、歯科助手に可能性を感じませんか？

歯科助手の枠を決めるのは自分次第なんです。

資格がなくても、人の命を預かる仕事、医療職に携われているという自覚がプロ意識を育成させてくれます。歯科助手も立派なプロなのです！私は歯科助手の仲間です。プロ意識を持って仕事をしている人を沢山、見てきたので自信を持って言えます！「資格がないから…」ではなく、「資格がないからこそ、歯科助手にしかできないことはなんだろう」という考えにシフトして頂きたいのです。

私はこれから歯科助手のリーダーとして考えていることは、スタッフ、一人一人が計り知れない才能の持った天才だと思っています。だけど、その才能や長所を自身で気付いていなかったり、自分でブレーキをかけていたりするとブレーキを外したい！能力を最大限に引き出すサポートをしたいと感じています。そのために日頃から人の良いところを見るようにしています。

日本は歯科業界の地位が他国に比べて低く、その中でも、歯科助手はこんなに楽しくて、活躍できる場だとは世間ではまだまだ知られていないと思います。ですので、これからが

チャンスです！まだ歯科助手という仕事がよく分からず、出会えてない人がいるなら是非、触れてほしいです。私は院長や先生の応援があってこそ、活躍できています。こういった環境が当たり前ではないということに感謝しております。感謝の気持ちを行動に起こしていきます。私、一人の力はちっぽけなので、いつも応援して下さる院長やスタッフや歯科助手の仲間と共に、歯科助手の社会的地位の向上を目指します。歯科助手の地位が向上すれば、歯科業界の地位も更に上がります。まずは、カツベ歯科クリニックから発信していきたいです。

そして、患者様や学生から憧れられる職業にします。なりたい職業ランキング No.1 にランクインすることを本気で目指しています。

私は歯科助手を天職だと思っています。ですが、カツベ歯科クリニックで歯科助手をしていなければ天職とまで思えることはなかったと思います。なぜ、そこまで思えたのか自分に問いかけてみました。院長やスタッフが存在承認をしてくれるからでした。私は、カツベ歯科に入って「こんなに承認して貰える職場ってあるんだ」と感激しました。私は元々、自己肯定感が低く、自信がありませんでした。だからこそ余計に、承認して貰えて、嬉しくて、幸せです。自分のことが好きになれなかったはずなのに、今では自分のことを大好き・・・いや愛してしまいました。そして、患者様が感謝の言葉と笑顔となって返ってきます。患者様から直接「ありがとう」と喜んで頂ける姿を感じれるお仕事って中々、ないと思います。信頼関係がないとお口や命を預けて頂けないとしたら、それだけの信頼感を持って来院して下さるんだなあ嬉しく感じます。患者様は歯科治療に対して、恐怖心や不安を抱えて来院されます。そんな中で、笑顔で会話ができることは当たり前のことではないんだとありがたく感じます。カツベ歯科のファンになって頂けたのだと、愛を感じ、とても嬉しいです。このピンクのガソリンを原動力になっていて、患者様へ、医院へ、社会へ恩返しをしていきます。

私は歯科助手という天職が大好きです♡